

II 鹿嶋市教育行政評価委員会の答申を受けて

1 総合評価について

平成 24 年度の教育行政評価は、評価シートの「評価項目」と「区分」に関して見直し、評価シートを計 15 領域に絞ったうえで実施しました。その結果、12 の評価項目が A 評価、また 3 つの評価項目が B 評価とおおむね適切に評価をいただいています。

今回の評価シートの改善点は答申でも評価されていますが、「必要性」、「執行段階の効率性」、「有効性」の視点を取り入れることで、各事業の投入コストと事業によって得られた結果の関係をわかりやすくすることに努めています。

なお、答申では、「芸術祭・市美術展覧会等の開催」において、若い世代を含め、参加者を増やすための企画、取組が課題とされています。また、「学力向上の推進活動に関する厳しい自己評価姿勢は理解できるが、第三者からの観察でも常日頃の改善努力は認められるので、今後はより明確な目標設定と評価指標の設定により自己評点を上げる努力」が求められています。

鹿嶋市の教育行政施策の成果は目に見える形で徐々に表れ始めていますが、教育委員会は教育効果向上を目指した挑戦者として常に前向きに時代の要請に応えていきたいと考えています。

これからも挑戦し続けることのできる取組を進めるにあたり、「組織力・職員の質・学ぶ姿勢・計画性・情報スキル」を磨きながら市民の皆様から理解される教育行政を目指します。

2 平成 24 年度教育行政運営方針における主要事業評価について

重点目標 1 豊かな心と生きる力の育成

(1) 学校図書館の整備 (A, 87 点)

ご指摘のとおり「中学生の読書量は 5 % 減で、やや停滞している」といえますが、高松小学校が「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣賞を受賞するなど、近年、市内には読書成果が顕著な小学校もあり、その成果が中学校に広まり、読書への取組が中学生になってからも継続していくことが課題といえます。

また、全小中学校への図書館司書配置でないため司書不在時における学校図書館運用法の研究研修の実施や中央図書館との連携強化など、運用面の課題はありますが、課題克服の方法論を確立し学校図書館が活発に活用されるべく努めます。

具体的には、平成 25 年度より中学校図書館整備を行い、計画に従い全小中学校の整備を完了し、小学生が読書に興味を持ち読書量が増えたように中学生

についても同様の効果を期待し計画的に学校図書館の整備充実を図ります。

重点目標 2 学力の確実な向上

(2) 学力向上の推進 (B, 70点)

①小学校における少人数学級, ②専科教員, AT・TT 講師の配置, ③学力診断テストについてそれぞれ実施していますが, ③につきましては, 茨城県学力診断テストにおいて県平均を目標の目安として改善に取り組んできました。

しかしながら, 中学校については引き続き課題を残した結果となりました。

自己評価による取り組み姿勢は前向きで継続的な努力は評価されましたが, その努力のわりに評点が B, 70点と低いこともあり, 事後としての評価の在り方がうまく結び付けられていない点に課題があると指摘されています。

重要な施策に対する目標設定そのものに課題があり, 「目標の達成と成果の検証」について緻密な「課題と評価指標」を設定する必要が指摘されています。

具体的には, 『学力テストとして事後評価の容易な面もあれば, 他方で支援的な教職員の学習に対する効果はそういった結果としてよりも, **学習プロセスにおける運用面での評価が求められる**のではないか』という指摘は示唆的であり, 今後の改善方法を明確に指摘いただいています。つまり, 県学力テスト平均を上回るという評価指標を中心とするだけでなく, 学校においてどのように AT / TT を評価し, 教育活動を効果的に活用しているのかという評価指標等についても評価指標に加えることにより「学力向上努力のプロセスの有効性」が明確になり評価も A 判定になることを示唆しています。

来年度評価には, この点について更なる洞察を加え, 評価視点の転換を図るよう努めます。

教育の目標は, 「人格育成」という複雑な要素を含み, 単純に学力向上を「生きる有能さ」に置き換えることはできません。自律的に社会的責任を持って有意義に生活を営むために「社会において必要な能力・知識・態度」を育てること, つまり「生活の有能さ」を育てることが重要だといえます。この「生活の有能さ」と「学力」をどのように結びつけ, 評価指標として創造するか, そしてどう「生きる力」の育成につなげていくかという問題こそ私たちが突き付けられた課題であると考えます。

(3) 長期欠席児童生徒解消 (A, 88点)

①不登校等対策連絡協議会の取組, ②幼稚園・保育所・小学校の連携, ③中連携による中1ギャップの解消, ④教育相談指導員によるカウンセリング及び適応指導教室相談員による学校・家庭訪問について取り組んでいます。

課題としては, ③における『長欠者及び不登校生徒数を減少させていない点』

を指摘されていますが、小学生の長欠者は確実に低下傾向を示していますので、適応指導教室と学校との連携ならびに相談体制への目配りの成果は徐々に始めている。

今後は、(仮称)教育相談所(教育センター)設置による専門職常駐体制に向けて具体的な計画を策定し、事後の対処療法から事前の予防体制の確立に努めます。

重点目標 3 郷土理解教育と国際理解教育の推進

(4) 鹿嶋市の歴史・文化・伝統の普及と発信 (A, 86点)

①はまなす郷土資料館、どきどきセンターにおける企画展、②郷土かるた、民話の普及、③ミニ博物館の運営、④小学生の参加による鹿嶋の歴史探検隊について取り組んでいます。

課題としては、①の参加者数の増加が指摘されています。郷土理解教育は鹿嶋っ子のアイデンティティ確立に重要な教育活動ではありますが、継続的に学校教育活動に取り込む具体策に乏しく、長年の課題となっています。子どもたちが期待感を持って当該施設を訪問し、鹿嶋市の歴史の豊かさや荘厳な雰囲気感動させられる施設の充実が課題となっています。

歴史・文化・伝統は、追体験することにより、理解が深まります。子ども達それぞれが継続的な体験をし、その体験を自分のことばや体で表現できる教育こそ、郷土理解教育の基本だと考えています。そのための具体的施策策定が求められていますので、地域との連携をさらに深めることのできる郷土理解教育を考えていきます。

重点目標 4 スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進

(6) スポーツ事業の開催と機会提供及び市民スポーツの支援 (A, 90点)

①シンボルスポーツの推進としてサッカーフェスティバルと武道大会の開催②駅伝やビーチサッカーなどの広域大会の開催③スポーツ団体の指導者研修会の開催④地区まちづくりセンターでは、研修を積んだ鹿嶋市スポーツ推進委員が健康教室を実施しています。

課題としては、少子化や社会環境が変化する中、青少年や市民のスポーツ活動への関わり方が変化しており、スポーツ少年団を含めた活動団体や地域における健康スポーツ活動への支援充実の必要性が指摘されています。

この点については、第2次鹿嶋市スポーツ推進計画(平成24年3月)の重点目標に掲げており、計画的に取り組んでいきます。

(7) 各地区まちづくりセンター活動支援，芸術祭・市美術展覧会等の開催（A，91点）

芸術祭及び市美術展覧会の課題としては、「実行委員及び出品者の固定化や高齢化」は引き続き提示されました。全体的には新たな取組や新規参加者の増加が中心的な課題として指摘されていますので、本課題についても「社会教育振興基本計画」に具体策を加え改善します。

(8) 神野向遺跡保存事業（B，70点）

課題としては、公有化の進捗状況など、他事業に比して困難な面があるため、評価シートとしては厳しい評価にならざるを得ない面があります。

遺跡全体の公有化とともに市民の意見要望を取り入れて、今後の事業計画を進めていきます。

重点目標5 安心して学べる教育環境づくり

(15) 教育委員会機能の強化（B，73点）

教育委員会において審議すべき議案は様々であり、また審議に際し、教育委員による事前の検討を要すべき案件も今後いっそう増加することが予想されます。そのため、機能の強化としての課題を明確化し、また着実に実行する事前の計画づくりやシステム化が指摘されています。

事前に検討を要すべき議案については、各委員が議案の内容についてより理解を深めたうえで審議できるようその都度情報を提供し、事前に協議を行っています。さらなる教育委員会機能の強化として、着実に実行するための体制づくりに努めます。

2 今後の教育行政評価の在り方について

ご指摘のとおり鹿嶋市教育委員会における教育行政評価項目の設定・評価手法はおおた確立されつつあります。しかしながら、評価項目によってはまだ十分ではない評価シートも存在しています。改善点は「必要性」、「執行段階の効率性」、「有効性」の視点を明確にし、それぞれの段階を明示するために必要な指標や情報を明らかにし、点数化できる情報や指標を精査する方法論の確立が重点課題であると認識しています。

BSC 活用による教育行政評価手法においては、「評価指標の開発」と「情報の収集」、すなわち根拠に基づく明確な評価を進めるべく、今後もいっそうの工夫・改善を行います。